

**無意識の思い込みに気づき、仕事の質を向上。
対話から可能性を広げる第一歩に。**



車載ネットワーク用光ファイバーなどのアクリル樹脂製品の製造に
約700名が従事する、三菱ケミカル富山事業所。
より魅力ある職場づくりを目指して、事業所の設備管理を担う設備技術部を
対象としたアンコンシャス・バイアスについての研修を開催。
当日は活発なグループディスカッションがされ、実りある時間となった。

今回の研修は、どのようなきっかけで実現したのでしょうか？

インタビュー



宮崎さん

きっかけは昨年6月、本社で行われた業務改善のディスカッションでした。
なぜこの業務はやめられないのか、例えばゴミ捨ては、なぜ女性がやらなければいけないのかといった議論から、「それは結局、思い込みやバイアスではないか」という意見が出たのです。
当時の私は「バイアスとは何だろう？」という状態だったのですが、上司に出張報告をした際、部署内でも研修をしようという話になり、県の方にご協力いただいて今回の開催に至りました。

設備技術部は事業所全体の設備管理を担うため、製造部門や協力会社など多くの人と関わります。コミュニケーションが要となる部署だからこそ、無意識の思い込みに気づくことが重要だと考えたのです。



立山さん

とても活発にグループディスカッションされていたのが印象的でした。

インタビュー



宮崎さん

今回は約45名と、部署のほぼ全員が参加しました。正直なところ、ここまでディスカッションが盛り上がるとは予想していませんでした。普段は安全や品質、納期、コストに直結する業務のため、緊張の連続です。今日は少し視点を変えて、リラックスして話せたことが良かったのだと思います。



宮崎さん

あえて普段の業務ではあまり接点のない人同士と同じグループにし、チームリーダーも固まらないように配置するなど、意見が出やすいよう工夫しました。その成果が皆さんの表情にも表れていて、今日は今までで一番いい顔を見せてくれたかもしれません（笑）



「アンコンシャス・バイアスを知る、気づく、対処する
～一人ひとりの可能性が広がることを目指して～」と題して、
富山県知事政策局政策推進室ジェンダーギャップ対策課の
野村美和課長を講師に研修を実施。
多彩な事例を通じて自身のアンコンシャス・バイアスに気づき、
その対処法を学びました。
その後、魅力ある職場に向け、取り組みたいことを話し合いました。

研修後の参加者の気づきと今後の目標

思い込みは成長阻害要素であり、多様な意見・考え方・背景を取り入れる、受け入れる姿勢に努めていこうと思った。



人に対してよりも自分自身に対して結構アンコンを強いっているなど思った。



人に褒められたりすると素直に受け取れなかったり、自分なんかじゃなどと思うことが多かったりするなど気づきがあった。



自分では何気なく話している言葉でも、アンコンになっている事もあるので、相手も気持ちになって話すことが大切だと思った。



一方的な気づきはいは配慮じゃない。配慮は対話して初めて成立するという事を学べた。



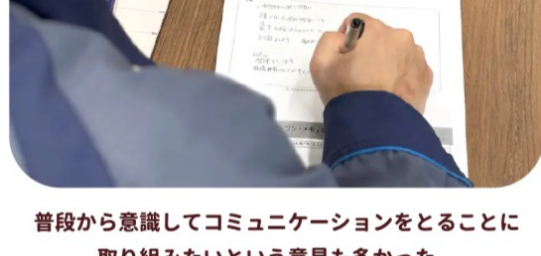
難しい。難しいがゆえに、取り組み続けていく必要があると感じた。



魅力ある職場に向けて取り組みたいこと



- ・他組織との交流をすることで自分のアンコンに向き合う機会を作る。
- ・コミュニケーションを活発に行うことで話しやすい環境を作る。
- ・決めつけて聞かないという選択ではなく、まずは聞いてみる努力をする。
- ・多様な考えを尊重し合える職場になるようにグループで対話・活動していきたい。
- ・声の大きな人の意見が通るのではなく、職位、年齢、性別関係なく自由闊達な意見交換。



普段から意識してコミュニケーションをとることに
取り組みたいという意見も多かった。

職場の雰囲気や特徴を教えてください。

インタビュー



立山さん

従来の設備管理部門は、いわば理系男性が中心の「頑固親父の世界」といった空気がありました。しかし現在はコンプライアンスも徹底され、若い世代や女性社員も増え、専門的な保全業務で女性が活躍しています。

もし昔のようにバイアスが強かったら、そうした活躍の場は生まれなかったかもしれません。



宮崎さん

富山事業所は時代とともに組織が変化し、県外からの転勤者も増え、言葉や文化の違いに触れる機会が多くあります。

方言や伝え方一つで、相手によっては受け取り方が変わり、意味が正反対になってしまうことも。

日常のさまざまなコミュニケーションの場に、バイアスが潜んでいる可能性があるのです。

研修を終えて、今後の目標は？

インタビュー



立山さん

弊社では「DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）」の理念のもと、誰もが活躍できる職場を目指して取り組みを進めています。

今回の研修をスタート地点として、さらに意見を出し合い、より良い職場環境へとつなげていきたいですね。



宮崎さん

まずは社内に向けて「設備技術部でこのような取り組みをした」と発信することから始めます。

そして、この研修で得た成果や学ぶ機会を、他の部署にも広くつなげていきたいと考えています。

小さな疑問をそのままにせず、いろんな人と対話することが、組織全体を大きく変えるきっかけになるかも！？



アルカモ

その他の取り組み・企業情報はホームページをご覧ください。

三菱ケミカル株式会社

